



おカネの正体は？ その3

これもおカネー日銀当座預金ー

城西大学経営学部 特任教授
粕谷和生



登場人物



1. はじめに

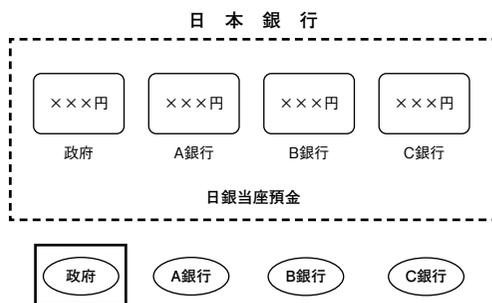
これまで常識と考えられてきたお金の観方は商品貨幣観と呼ばれますが、本誌118号と120号では、信用貨幣観という別のアングルからおカネの正体を探究しました。

二つの貨幣観の決定的な違いは、おカネをモノとみるか、負債とみるかです。おカネをモノとみる商品貨幣観では、銀行が貸し出し（融資）を行う際には、その元となるおカネ（預金者から預かっているおカネ）が必要になります。他方、おカネを負債とみる信用貨幣観では、貸し出しの元となるおカネを準備する必要はありません。銀行側の帳簿に負債となる銀行預金を記録し、同時に融資先の預金通帳に同額の銀行預金を記録すれば、貸し出すことができます。120号では仕訳を使って確認しました。

今回も引き続き、二つの貨幣観を対比させながら、「これもおカネ」をテーマに「日銀当座預金」について探究してみましょう。

は政府・日本銀行・市中銀行（信用金庫や証券会社などを含む）の三者だけが使える当座預金です。

：簡単にいうと政府や市中銀行が日本銀行に預けている当座預金ということですね。（図1）



（図1）

：日銀当座預金は、政府・日本銀行・市中銀行の三者間における決済手段として主に使われますが、そのほかにも役割がありますので調べてみましょう。

2. 日銀当座預金とは

：日銀当座預金というのは、簿記で学んだ当座預金とは違うのですか？

：みなさんがよく知っている当座預金は、取引銀行で所定の手続きをすれば、どの企業でも利用できますが、日銀当座預金

3. 国債は誰が買っている？

：国債は政府が発行し、市中銀行がこれを買っています。

：国債の発行は、政府にとっては借り入れをしているわけだから、政府は負債が増えますよね。

：マスコミがよくいう「国の借金」だね。

：一方、国債を買った市中銀行は、政府におカネを貸し出し（融資）しているわけだから資産が増加する。

：でも、市中銀行は国民の預金で国債を買っているのでしょうか？

：その話、聞いたことがある。

：商品貨幣観では、銀行が融資を行う際には、貸し出しのために、その元となるおカネが必要でした。それが私たちの預金ということです。

：それならマスコミがいつている「国民一人当たりの国の借金 800 万円超」という表現はおかしくありませんか？

：融資の元になっているのは、国民の預金なのに「国民一人当たりの」というと国民が借金しているみたいに聞こえる。

：確かに誤った印象を与える表現です。それに「国の借金」は「政府の借金」とした方が正確ですね。

4. 日銀当座預金で国債を買う

：それでは、信用貨幣観に立った場合、国債の発行はどのように行われているのかをみてみましょう。ここからは、いつものように簿記の仕訳で考えますので次のような例題を設けます。

〈例 1〉政府はインフラの整備を行うため、市中銀行に対して国債 1,000 億円を発行し、市中銀行の日銀当座預金口座から 1,000 億円の支払いを受

けた。(図 2)



(図 2)

：〈例 1〉のポイントは、国債の代金決済を日銀当座預金で行うという点です。つまり、市中銀行の日銀当座預金口座から政府の日銀当座預金口座に 1,000 億円を振り替えて決済します。商品貨幣観のように国民の預金を使うわけではありません。政府と市中銀行の仕訳はどうなりますか？

：政府は、日銀当座預金が 1,000 億円増加して、国債という負債が 1,000 億円増加します。

【政府の仕訳】

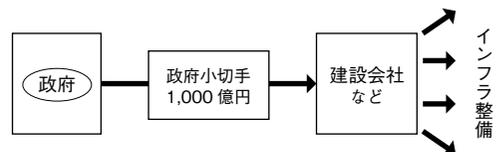
(借) 日銀当座預金 1,000 (貸) 国債 1,000

：市中銀行は国債を買ったので有価証券 1,000 億円の増加として処理し、同時に日銀当座預金が 1,000 億円減少した処理を行います。

【市中銀行の仕訳】

(借) 有価証券 1,000 (貸) 日銀当座預金 1,000

〈例 2〉政府は 1,000 億円のインフラ整備を建設会社などに行わせ、その代金は政府小切手を振り出して支払った。(図 3)



(図 3)

：〈例 2〉では政府が政府小切手を振り出しています。〈例 1〉で政府の日銀当座

預金は1,000億円増加しましたので、これを担保に政府は小切手を振り出すことができますのです。

簿記の授業では、小切手の振り出しは当座預金の減少、受け取りは現金の増加と学びましたが、ここでは政府小切手の振り出しは「支払政府小切手」(負債)の増加、受け取りは「受取政府小切手」(資産)の増加として仕訳してください。

支払政府小切手は即日払いの支払手形勘定のようなもの、受取政府小切手も即日払いの受取手形勘定のようなものと考えるとわかりやすいと思います。

 : 政府はインフラ整備をしましたので、橋や道路などの資産を取得します。これについては、「インフラ資産」という勘定で処理することにします。

【政府の仕訳】

(借) インフラ資産 1,000
(貸) 支払政府小切手 1,000

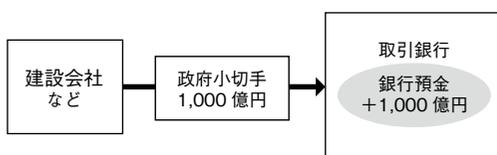
 : インフラ整備を担当した建設会社などは1,000億円の売上があり、その代金を政府小切手で受け取っています。

【建設会社などの企業の仕訳】

(借) 受取政府小切手 1,000 (貸) 売上 1,000

 : 建設会社などは受け取った政府小切手を取引銀行に持ち込み、自社名義の銀行預金(当座預金や普通預金など)口座に入金します。

【例3】インフラ整備を担当した建設会社は、政府小切手を取引銀行に持ち込み、銀行預金に預け入れた。(図4)



(図4)

 : 建設会社などでは、銀行預金が1,000億円増加し、同時に受取政府小切手が1,000億円減少します。

【建設会社などの企業の仕訳】

(借) 銀行預金 1,000 (貸) 受取政府小切手 1,000

 : 取引銀行(市中銀行)では、受取政府小切手が1,000億円増加し、同時に負債としての銀行預金が1,000億円増加します。

【市中銀行の仕訳】

(借) 受取政府小切手 1,000 (貸) 銀行預金 1,000

 : ここでの注意点は、建設会社などの企業にとって銀行預金は資産ですが、市中銀行にとっては、銀行預金は負債になるという点です。これは120号でもやりました。ところで、興味深いことが起きているのですが、気づきましたか？

 : <例1>は国債の発行だし、<例2>はインフラ整備。

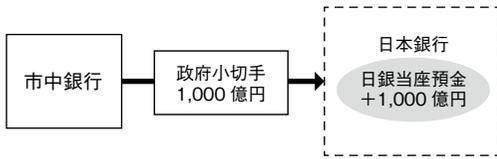
 : <例3>では政府小切手を取引銀行に持ち込んだ。その瞬間に銀行預金が1,000億円生まれている。

 : ということは、世の中のお金が1,000億円増えた？

 : <例1>で発行した国債1,000億円を起点に<例3>になると1,000億円の銀行預金が生み出されています。

 : そろそろ最終章です。再び日銀当座預金の出番です。

【例4】市中銀行は政府小切手1,000億円を日本銀行に持ち込み、自行の日銀当座預金口座に預け入れた。(図5)



(図5)

 : 市中銀行では、受取政府小切手が1,000億円減少し、日銀当座預金が1,000億円増加します。

【市中銀行の仕訳】

(借) 日銀当座預金 1,000

(貸) 受取政府小切手 1,000

 : 日本銀行は、受取政府小切手1,000億円が増加するので借方に記入することはわかりますが、貸方は見当がつきません。

 : 銀行預金は、市中銀行が自己の負債として発行したおカネでした。同様に日銀当座預金も、日本銀行が自己の負債として発行するおカネです。日本銀行の貸借対照表を検索して確認してください。日本銀行の貸借対照表の貸方に負債として日銀当座預金が計上されています。ちなみに、現金も貸借対照表の負債に計上されています。

 : 日本銀行は日銀当座預金という負債を増やして政府小切手を受け取るのですね。

【日本銀行の仕訳】

(借) 受取政府小切手 1,000

(貸) 日銀当座預金 1,000

 : 次に政府小切手を持っている日本銀行は、政府にこの小切手の支払いを求めます。

 : 日銀当座預金で決済するのは？

 : そのとおり。それでは最後の例題に取り組みましょう。

〈例5〉 日本銀行は政府小切手1,000億円を政府に呈示し、政府の日銀当座預金口座から支払いを受けた。

 : 政府は〈例2〉で計上した支払政府小切手1,000億円を減少させ、同時に日銀当座預金を1,000億円減少させる。

【政府の仕訳】

(借) 支払政府小切手 1,000

(貸) 日銀当座預金 1,000

 : 日本銀行は、受取政府小切手が1,000億円減少し、日銀当座預金が1,000億円増加する。

 : それでは、日銀当座預金を資産としてみていることになります。

 : 日本銀行にとって日銀当座預金は負債でした。日銀当座預金という負債を減少させると考えるのですね。

【日本銀行の仕訳】

(借) 日銀当座預金 1,000

(貸) 受取政府小切手 1,000

 : 以上で今回の探究活動は終了です。ただ、これで終わらせたら全体像が、まだ見えません。そこで課題を出します。政府・市中銀行・日本銀行・建設会社などの企業、これら四者の勘定記録を比較して、信用貨幣観に立った国債発行の意味を考えてみましょう。